

豫科練



No.472 令和4年

9・10月号

○連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.15…	2
○連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》…	3
○令和4年度評議員会議事録…	4
○第5代理事長に安井剛氏が就任…	6
○貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録…	7
○三四三空隊史 ¹⁴ …	9
○さらば予科練 ⁶ …	15
○甲飛14期故大野富美夫様に関する情報の提供について…	20
○天国へのメッセージ第5回…	20
○雄翔館見学者感想文…	21
○海原会寄付者芳名簿…	23
○事務局日誌…	23

公益
財団法人

海原会

高松宮妃殿下御歌
予科練習生を偲びてよめる

海を征に

けいおほそらに

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

わらわ

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行
予科練習生を偲びてよめる

海はらに

はたおほそらに

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下の御直筆で、有栖川流と申しあげ、妃殿下はその御宗家にあたられると承ります。

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 若桜の碑 No.15



「若桜の碑」は、三重海軍航空隊で教育を受けた予科練各期の有志によって結成された(財)若桜福祉会が建立した碑で、若桜霊園の各期碑の中心となっている主碑である。その前に「飛」の一字を刻んだ碑が配置されている。若桜霊園は、次の各期の碑が主碑を中心に左右に建立されている。(乙飛十九期、二十期、二十一期、二十二期、二十三期、甲飛十一期、十三期、十五期、特飛三期、五期、丙飛十五期)

三重海軍航空隊は、海軍航空軍備の大増強により搭乗員の大量養成のため予科練教育担当の練習航空隊として昭和十七年八月一日に三重県香良洲町伊勢海岸の四十万坪の用地で開隊した。

三重空で教育を受けた予科練習生の期は、乙飛は、第十七期が岩国空から、第十八期が土浦空から転隊したの続き、第十九期から第二十四期までが教育を受けた。甲飛は、第十期が土浦空から転隊、第十一期、第十二期、第十三期(前期)第十三期(前・後期)第十五期が教育を受けた。特飛は、第三期から第九期まで、丙飛は第十五期が入隊して教育を受けるといふ大規模の練習航空隊で、土浦空、鹿兒島空と共に予科練教育の中心的な役割を果たした。

また、若桜霊園には、若桜会館が建設され、地上三階の宿泊施設もある立派な建物である。館内には予科練習生に関する各種資料、実物模型、遺書などの思い出の品々が展示されている。

若くして祖国の安泰を願って散華した予科練習生の冥福を祈る霊園であり、永久にその功績を語り継ぐ為の施設である。

- 所在地 三重県一志郡香良洲町
- 問合せ (財)若桜福祉会

会長 小川金次郎氏
電話 ○五九二九一―二二二一八

海軍飛行豫科練習生

遺書 遺詠 遺稿 辞世

遺書

川尻 勉 少尉(没後階級) 北海道出身 十八歳 甲飛十三期

回天特別攻撃隊多聞隊 昭和二十年七月二十九日沖繩海域にて特攻死

勉、この度、幸いにも日本男子として誉れとすべき死所を得、醜艦轟沈せんと張り切り居り候。昭和の聖代に生を享けてより、志を大空に樹て、大空の雲を我墓標とせんとせしも、新兵器搭乗員として、神風特攻隊の一員となり、一途に体当たりへと邁進し来たり候。

心は、逸れど機至らず、今日まで腕を撫して生き長らえしも、ここに至りて、出撃出来る身となり申し候。

日本男子として、これ以上の幸福、喜びこれなきものと存じ居り候。

父上の子として、川尻家の長男として、恥じざる最後を為さんと心掛けおり候えば、何卒ご安心下され度候。若冠十八歳の身をもって、一人千殺の出来る身を、お喜び下され度候。

父上様初め皆様に先立つ罪は何とも申し上げる言葉もなく、唯々お許し下さいの一語にて候。

然れども大義親を滅すとか、神州日本に最大の危機至らんとする今、先立つも忠に発したれば、また孝なりと信じ居り候。生まれしより受けし数々の御恩、不肖勉よく心得おり候。なんらの御恩返しもなすことなくして散り逝くは心苦しき次第に候も、またいづくかの世にて御孝養をつくすべく、その折を今より楽しみに待ち居り候。

家の事は、何の心配もなく出撃致し候。勉死したる後、志を継ぐ弟妹なきことが残念に候。出来得ることなれば、私の弟または妹なり御養育なされ、以って私の志を継ぐべく御教育下され度候。右最後のお願いと致し候。

父上様

御一同様

公益財団法人海原会
令和4年度評議員会議事録

日時

令和四年六月十八日(土)

午後一時から二時十分

場所

ホテルマロウド筑波

(茨城県土浦市城北町2-24)

出席者評議員定数7名

定足数3名

【出席評議員】

評議員 小野 昌美

評議員 湯原 弘

評議員 明石 英次

以上3名

【委任状提出者】

評議員 久保山賞一

評議員 津島 裕

評議員 岩館 芳雄

評議員 石引 大介

以上4名

【出席理事・監事】

理事 菅野 寛也

理事 安井 剛

理事 酒井 省三
理事 平野 陽一郎
理事 湯原 豊一郎
理事 山下 桂子
監事 豊岡 昭
以上7名

【出席顧問・参与】

顧問 六車 昌晃

参与 行方 滋子

以上2名

議事

定足数の確認

開会に先立ち、平野事務局

長から定足数の報告があった。

評議員定数七名中三名が出席、

委任状提出四名で過半数が出

席につき本評議員会は海原会

定款第十八条第一項に照らし

て適法に成立することが確認

できた。

議長の選任

平野事務局長は、評議員会

出席者の中から、参与行方滋

子氏を議長に指名し議場に諮

ったところ、出席者全員異議

なくこれを承認可決した。行方滋子氏は議場において議長に就任することに同意した。

議事録作成人及び議事録署名人の指名

議長は議案審議に先立ち、

本評議員会の議事録作成人に

平野陽一郎氏を議事録署名人

に山下桂子氏及び豊岡昭氏を

それぞれ指名し、議場に諮つ

たところ、全評議員異議なく

これを承認可決した。議長は

午後一時00分評議員会の開

会を宣言した。

第1号議案(その1)「令和

3年度事業報告」について

議長は、当期(自令和三年

四月一日至令和四年三月三十

一日)の事業実施状況につ

き、令和三年度事業報告書及

び事業報告書の付属明細書を

配布した上で、平野事務局長

を指名して報告を求めた。平

野事務局長は配布資料に基づ

き、事業内容を読み上げなが

ら説明した。

議長は報告内容について議場に質疑を求めたところ、小野評議員から会員数の推移状況とネットワーク海原会の具体的な活動状況に関する質問がなされた。平野事務局長が口頭により回答をおこなった。

議長は引き続き議場に質疑を求めたが特になく、質疑なしと認め議事を終了した。

第1号議案(その2)「令和

3年度収支決算」について

議長は、平野事務局長を指

名して令和三年度収支決算に

ついて説明を求めた。平野事

務局長は既配布の財務諸表に

ついて収支の詳細について説

明した。

1 財産目録

2 貸借対照表

3 正味財産増減計算書

4 貸借対照表及び正味財産増減計算書の付属明細書

(規定により作成を省略しているため、注記で報告)

議長は、本議案は第一号議

案(その三)「監査報告」に

ついて報告を受けた後に採決を行う旨を宣言して第一号議案(その三)の審議を行った。

第1号議案(その3)「監査報告」について

議長は豊岡監事を指名して令和四年度監査結果について報告を求めた。豊岡監事は令和四年四月十四日(木)に海原会事務局において酒井副理事長、安井副理事長、平野事務局長が立ち合いのもと令和四年度監査を実施した結果、適正に処理されており異常がなかったことを机上に配布した監査報告書に基づき報告した。議長は、監査報告について議場に質疑を求めたが特になく、質疑なしと認め議案は終了した。次に、第一号議案(その二)について財務諸表の個々について質疑を行ったが特になく、議長は四個の財務諸表を一括して審議する旨を議場に宣言した後、承認を求めたところ議案は出席評議員全員一致で承認された。

第2号議案(その1)「令和四年度事業計画」について

議長は、平野事務局長を指名して令和四年度事業計画について報告を求めた。平野事務局長は机上に配布した令和四年度事業計画書に基づき詳細を報告した。議長は、令和四年度事業計画について議場に質疑を求めたが特になく、質疑なしと認め議事を終了した。

第2号議案(その2)「令和四年度収支予算」について

議長は、平野事務局長を指名して令和四年度収支予算について報告を求めた。平野事務局長は机上に配布した令和四年度収支予算書に基づき令和四年度収支予算の詳細について報告した。議長は、令和四年度収支予算について議場に質疑を求めたところ湯原評議員から、事務局職員の給与に関する質問がなされた。平野事務局長は口頭により回答を行った。議長は引き続き議場に質疑を求めたが特になく、

質疑なしと認め議事を終了した。

第3号議案「評議員の選任について」

議長は、評議員選定委員会議長の酒井副理事長を指名して評議員の選任について説明を求めた。酒井副理事長は机上に配布した評議員選定委員会議事録に基づき、現在の評議員全員が令和四年六月十八日(土)に開催される第五十回評議員会終了時点で任期満了となるのに伴い退任する旨の報告があった。引き続き、新評議員として久保山賞一氏、津島裕氏、小野昌美氏、明石英次氏、石引大介氏、湯原弘氏の六名が評議員選定委員会において選任(重任)され、各氏は評議員就任承諾書を提出し、第五十回評議員会終了時点で公益財団法人海原会評議員に就任することが報告された。

議長は議場に質疑を求めたところ特になく議事を終了した。

【退任した評議員】

岩館 芳雄 氏

(以上1名)

【選任された評議員】(重任)

久保山賞一 氏

津島 裕 氏

小野 昌美 氏

明石 英次 氏

石引 大介 氏

湯原 弘 氏

(以上6名)

第4号議案「理事長・副理事長の選任について」

議長は、平野事務局長を指名して代表理事(理事長)及び業務執行理事(副理事長)の選任について報告を求めた。平野事務局長は、菅野寛也現理事長が一身上の都合で辞任する事に伴い、六月定例理事会において、安井剛副理事長が次期代表理事(理事長)に選任され、安井剛氏は六月理事会への就任を承諾した旨の報告があった。

引き続き、安井剛副理事長

が理事長に選任された事に伴い、後任の業務執行理事（副理事長）に星指隆理事が六月の定例理事会で選任され、星指隆理事は就任承諾書を提出して業務執行理事（副理事長）への就任を承諾した旨の報告があった。

議長は議場に質疑を求めたが特になく議事を終了した。

以上で、全ての議案について審議を終了したため議長は十四時十分に閉会を宣言し散会した。以上、この議事録が正確である事を証するため、議長及び議事録署名人は記名捺印する。

令和四年六月十八日
公益財団法人 海原会



第 50 回評議員会

理事長就任ご挨拶



この度、「菅野寛也」理事長の後を受けて第5代理事長に就任しました安井剛でございます。

海原会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、「海原会」は昭和四十一年に土浦海軍航空隊跡地に高松宮殿下及び妃殿下の御臨席を賜り建立された予科練戦没者慰霊碑（予科練一人像）と、昭和四十三年に建設された予科練記念館（雄翔館）に展示される戦没予科練生の遺品・遺稿・遺影等を維持管理し、戦没予科練生の御霊を慰霊す

ると共に、その遺訓を後世に伝承する事を目的として、昭和五十三年に「財団法人海原会」として設立されました。

平成二十二年には「公益財団法人」に移行することにより、従来にも増して会に公益性が求められることとなりました。

このため、ホームページ等ソーシャルネットワーク等を利用して関連の情報を適宜に発信して社会に貢献するとともに、会員の皆様が相互に情報を交換したり予科練や日本の近現代史の研究を行うための環境や資料の提供などにも力を尽くしているところでございます。

役員も多くが、高齢化のために予科練同窓生から一般会員へと移り変わり、生存予科練同窓生が創設した海原会が今まさに変革の時を迎えようとしております。

このような時期に、理事長を拝命しその体制改革の先頭に立てることは光栄であると

ともに、大きな責任を感じております。

今後ともに、ご遺族及び予科練同窓生を始めとする会員の皆様のご理解・ご協力を頂くと共に、「陸上自衛隊武器学校OB会」及び地元阿見町の皆様、更には、「海原会」にご理解・ご協力を頂いている関係諸団体のお力を得て「公益財団法人海原会」の活動を継続してまいりたいと考えております。

どうか関係の皆様には、倍旧のご理解・ご支援・ご協力を賜りますように御願ひ申し上げます。

令和四年六月十八日

公益財団法人海原会

理事長 安井 剛



貸借対照表

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	187,969	202,992	△ 15,023
普通預金	2,677,299	5,129,587	△ 2,452,288
郵便振替	1,217,891	234,669	983,222
現金合計	4,083,159	5,567,248	△ 1,484,089
貯蓄	0	156,200	△ 156,200
仮払品	0	0	0
流動資産合計	4,083,159	5,723,448	△ 1,640,289
2. 固定資産			
(1)基本財産			
普通預金	76,000,000	60,000,000	16,000,000
基本財産合計	76,000,000	60,000,000	16,000,000
(2)特定資産			
慰霊顕彰事業基金	6,000,000	0	6,000,000
特定費用準備金	0	0	0
特定資産合計	6,000,000	0	6,000,000
(3)その他の固定資産			
土地建物	0	11,894,726	△ 11,894,726
構築物	0	3,740,154	△ 3,740,154
その他の固定資産合計	1,537,740	1,725,858	△ 188,118
固定資産合計	1,537,740	17,360,738	△ 15,822,998
資産合計	83,537,740	77,360,738	6,177,002
資産合計	87,620,899	83,084,186	4,536,713
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	9,189	9,189	0
流動負債合計	9,189	9,189	0
負債合計	9,189	9,189	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	87,611,710	83,074,997	4,536,713
負債及び正味財産合計	87,620,899	83,084,186	4,536,713
備 考	財務諸表に対する注記に記載しているため付属明細書は省略する。		

正味財産増減計算書(税込)

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用利益	[0]	[9]	△ 9
基本財産受取利息	0	9	△ 9
普通財産運用利益	[67]	[88]	△ 21
普通財産受取利息	67	88	△ 21
受募取金	[1,461,100]	[1,862,900]	△ 401,800
受募取金慰霊取寄付	[267,000]	[688,000]	△ 421,000
受募取金慰霊取寄付	[2,039,260]	[1,047,116]	992,144
受募取金慰霊取寄付	[243,000]	[255,000]	△ 12,000
受募取金慰霊取寄付	[94,120]	[51,410]	42,710
経常収益計	4,104,547	3,904,523	200,024
(2)経常費用			
事業費	[9,148,554]	[6,425,727]	2,722,827
慰霊顕彰事業費	(5,622,831)	(3,506,866)	2,115,965
慰霊顕彰事業費	712,541	203,993	508,548
ケプ支部活動費	341,459	132,311	209,148
遺族支援調査費	59,136	36,340	22,796
関係団体費	294,280	200,060	94,220
給料手当	684,390	655,777	28,613
会費	10,174	29,454	△ 19,280
旅費	403,634	304,125	99,509
通信費	742,575	389,089	353,486
消耗品	109,325	134,092	△ 24,767
消渉費	100,780	37,895	62,885
光熱費	90,585	79,784	10,801
租税公料	80,418	74,945	5,473

印会願建減雜	費	0	1,452	△ 1,452
機	刷受問	50,925	40,674	10,251
機	物価	439,746	367,434	72,312
給	取管償	501,668	376,843	124,825
会	誌	120,809	256,693	△ 135,884
旅	誌	880,386	185,905	694,481
通	誌	(3,463,364)	(2,875,311)	588,053
消	料	1,505,315	1,512,463	△ 7,148
涉	費	317,897	304,606	13,291
光	議交運	4,726	13,682	△ 8,956
租	外	187,487	141,265	46,222
印	熱	344,924	180,731	164,193
会	稅	50,781	62,285	△ 11,504
願	刷	46,812	17,602	29,210
建	受問	42,076	37,059	5,017
減	管償	37,354	34,812	2,542
雜	物価	0	674	△ 674
支	取管償	23,655	18,893	4,762
青	物価	204,261	170,672	57,981
給	少	233,023	175,042	△ 63,117
会	年	56,116	119,233	△ 322,645
旅	育	408,937	86,292	322,645
通	成	(62,359)	(43,550)	18,809
消	手	0	0	0
涉	議交運	10,124	9,701	423
光	費	151	436	△ 285
租	信	5,971	4,499	1,472
印	耗	10,985	5,755	5,230
会	外	1,618	1,984	△ 366
願	水	1,491	560	931
建	稅	1,340	1,180	160
減	刷	1,190	1,108	82
雜	受問	0	22	△ 22
管	管償	753	602	151
給	物価	6,505	5,436	1,069
会	料	7,421	5,575	1,846
旅	議交運	1,787	3,797	△ 2,010
通	費	13,023	2,895	10,128
消	耗	[1,284,400]	[270,781]	1,013,619
涉	外	53,285	51,057	2,228
光	水	792	2,293	△ 1,501
租	稅	31,426	23,678	7,748
印	刷	57,815	30,293	27,522
会	受問	8,512	10,440	△ 1,928
願	管償	7,847	2,950	4,897
建	物価	7,053	6,212	841
減	料	6,261	5,835	426
雜	公	0	113	△ 113
支	製手入	956,196	10,331	945,865
会	險	3,965	3,167	798
保	報	0	32,000	△ 32,000
願	理却	34,238	28,608	5,630
建	管償	39,059	29,340	9,719
減	物価	9,406	19,985	△ 10,579
雜	料	68,545	14,479	54,066
管	費	10,432,954	6,696,508	3,736,446
給	費	△ 6,328,407	△ 2,791,985	△ 3,536,422
会	料	0	0	0
旅	費	△ 6,328,407	△ 2,791,985	△ 3,536,422
通	耗	0	0	0
消	外	10,865,120	0	10,865,120
涉	水	1,759,846	0	1,759,846
光	稅	9,105,274	0	9,105,274
租	刷	0	0	0
印	受問	10,865,120	0	10,865,120
会	管償	△ 6,328,407	△ 2,791,985	△ 3,536,422
願	物価	83,074,997	85,866,982	△ 2,791,985
建	料	87,611,710	83,074,997	4,536,713
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
管	費	0	0	0
給	費	0	0	0
会	費	0	0	0
旅	費	0	0	0
通	費	0	0	0
消	費	0	0	0
涉	費	0	0	0
光	費	0	0	0
租	費	0	0	0
印	費	0	0	0
会	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費	0	0	0
願	費	0	0	0
建	費	0	0	0
減	費	0	0	0
雜	費	0	0	0
支	費	0	0	0
会	費	0	0	0
保	費</			

財産目録

令和4年3月31日現在

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	手元保管	運転資金	187,969
預金	普通預金		2,677,299
	三菱UFJ銀行		1,217,891
郵便振替貯蔵品	阿見と予科練	予科練顕彰資料	0
流動資産合計			4,083,159
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	普通預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(公1~公3)に使用している。	76,000,000
	三菱UFJ銀行		76,000,000
(2) 特定資産			
慰霊顕彰事業基盤整備特定費用準備金	普通預金	特定費用準備金として公1事業のために使用している。	6,000,000
	常陽銀行阿見支店		
(3) その他固定資産			
構築物(山本五十六像)	茨城県稲敷郡阿見町青宿121-1 陸上自衛隊武器学校構内雄翔館前に設置	公益目的保有財産であり、予科練記念館に設置して公-1事業に使用している不可欠特定財産である。	1,537,740
固定資産合計			83,537,740
資産合計			87,620,899
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	京浜印刷(株)	源泉所得税	0
預り金			9,189
流動負債合計			9,189
負債合計			9,189
正味財産			87,611,710

三四三空隊史 ⑭

時には翼の下で

仮眠をしながら

古賀 良一(整備主任)

名機紫電改の名とともに、精強無比の名を今日に残す、わが三四三空の源動力ともなった整備員の当時の活躍ぶりは、どんなものだったか、三十年代前のこととて記憶はすでに遠のいたものもあるが、今でも、はっきりと記憶に残っているものの幾つかを要約して、三四三空の旧友諸氏と、当時の苦心を憶いおこしてみようと思う。

一、私が三四三空分隊長(整備)に補われて松山に着任したのは、二十年の三月四日で、春の早い四国路にはすでに菜の花が咲いている頃だった。

源田司令、中島副長、志賀飛行長等に飛行場の指揮所で着任の申告をした。

整備が品川淳大尉、七〇一飛行隊が辻野喝禪大尉、四〇七飛行隊が成松孝男大尉、そして三〇一が小林秀江大尉で、私が最先任であったので整備主任として整備全般を統轄することになった。

このメンバーはその後部隊が鹿屋方面、大村と移動し終戦を迎えるまで変わらなかつた。(このほかに兵器整備分隊長は二宮武大尉で、これは飛行長直属であった。)

例の三月十九日、敵機動部隊からの敵機を松山上空に迎撃して大戦果を挙げた時の光景は、飛行場からもはっきりと望見された。彼我双方の高度が高いので、機影そのものは見えないが、双方の機銃音に混って時折パツパツと閃光がひらめき、白煙や黒煙の上るたびに、敵か味方が判らないうが一機、また一機と空中に散る光景に、祈る思いで、敵機であつてくれと手に汗して空を眺めていた。飛行場施設にも若干の被弾を受けたがほと

んど被害らしい被害もなく短時間の激闘の末、あの大戦果である。

自分達が整備した機が自分達の目の前で、つぎつぎと敵機を撃墜して戻って来る様を目のあたりにした整備員の志気は、いやが上にも上り、明日への闘いに全員が命をかけることを心に誓ったことと思う。その日、私は松山から高知に抜ける山中の九万温泉附近に敵機（複数）が墜落したらしいとの現地からの情報にもとづき、整備員十数名を引率指揮してトラックで捜索に出発、現地村人達の協力を得て二日ばかりで捜索したが、手がかりのないまま帰隊したことを覚えていた。

パイロットと何ら変わることはない頼母しい姿であった。

一、沖繩が陥落して鹿屋方面の飛行場被害が激増し、作戦不適となるや、部隊は大村基地に移動し、ここで最後の決戦を迎えるため、私以下整備員の大部は列車で、一部の整備員は各飛行隊に随伴して大村に転進。大村に集結を完了したのは四月の下旬だったと思う。ここで往時を回想してもらうため大村飛行場の当時の姿に少しふれてみよう。

長崎線の諫早駅で大村線に乗りかえて佐世保行に乗ると、二ツ目が大村で、そのつぎの竹松駅という小さい駅に降りて海の方に少し歩くと、海軍航空廠と道一つへだてて飛行場や隊舎があり、三四三空が転戦して来るまでは大村海軍航空隊が主部隊であった。航空廠は前年のたしか六月頃支那大陸からのB29による爆撃で、ほとんど破壊焼失し、焼けただれた鉄骨に天幕をかぶせた状態の下で、機体や発

動機の大修理、いわゆる航空廠修理が行われており、聞くところでは、廃虚と敵に思わせるための一種のカムフラージュのため、わざと修理しないのだったことであつた。

一方私たちの起居は、疎開して空屋になった飛行場周辺の民家や機の翼の下、防空壕の中などに、少人数ごとに分散起居し、平常のような分隊毎の整然とした内務生活とは凡そ縁遠いもので、それだけに部下の掌握もきわめて困難で、整備作業は、ほとんど機付長または班長の下士官諸君の、強い責任感と自主積極性によって遂行されたと言っても過言ではない。

それぞれの、機には尾部に受持班長の名前と機付長の姓が記入されており、彼等は翌日の出撃にそなえて徹夜の作業を行なったり、時には翼の下で仮眠し祈るような気持ちで機の武運を願ったものである。それだけにたまたま受持機が未帰還の場合には、食事

ものを通らぬ思いで夜の飛行場に立ちつくしているのが常だった。こうした光景は、三四三空に限られたことではないかもしれないが、当時の整備員なら誰でもが経験したことだと思う。

三〇一空時代の筆者



一、空中で多くの搭乗員が赫々たる戦果を挙げて散華したが、地上でも多くの整備員が、その戦果のかけに散華しているいは傷ついた。

敵は大村基地には大型爆弾よりは、いわゆる人馬殺傷用とわれわれが呼んでいた破片爆弾を主用していた。これは瞬発信管を装着した小型爆弾で、地面に着地するや否や、キ

ヤラメル大の無数の細片に砕けて、着地点を中心に半径十米以上の地面を隈なく薙ぎたおすもので、これをまともに受けて今話をして別れたばかりの整備員が、つぎの瞬間一片の肉片となつて散華した光景が今でもはつきりと臉に残つておる。

一、敵機による在地機に対する攻撃も執ようで、被爆または銃撃による在地機の炎上を一機でも少なくするために、昼間の待機が終われば全機燃料タンクを空にし翌日また燃料を積んで待機すること、たとえ被弾はしても炎上を免れるという方法を講じた。

たしかに燃料をおとした機は被弾で破孔は生じてても炎上はしない。破孔は、工作科や航空廠の力で日ならずして復旧することが出来るが、燃料を落してない機は必ずといってよいくらい炎上してしまう。燃料を積むのは容易であるが、元来航空機には燃料を急速に抜くための特別な装置がある

わけではなく、一見簡単な作業のようであるが、少数ならいざ知らず、多数機ともなるとこの作業は、容易ではなかつた。

在地機の被害を少しでも少なくするためにとられたもう一つの手段は、遠くに分散隠ぺいすることであつた。

そのためには大村公園や村の農家の納屋の蔭などを選んだ。

大村公園までは約四キロもあり、その上そこまでの運搬路は砂利敷きの凸凹な田舎道で、両側には電柱もあり、その間を翼巾十二米の機を人力で運ぶのは、なかなかの苦勞であつた。

車輪はパンクするし、翼端は電柱にぶつつけるし、それでも地上損害を一機でも少なくするための執念にも似た整備員の努力が困難を冒して続けられた。

囀機も工作科の努力で、飛行場の所々におかれたが敵の目を誤魔化すには、おのずと

限界があり、空中、地上ともに彼我の激闘は、ますます困難の度を加え空に於いては飛行隊長をはじめ、歴戦の名パイロットを多数失い、地上においては整備員をはじめ多くの地上戦死者を出し、戦局は刻々と深刻の度を加えて行つた。

一、戦局の急迫とともに我が海軍には「特別年少兵」略して特年兵と云う制度が設けられ昭和の白虎隊にも比すべき十四、五才の少年が航空決戦に志願応募し、海に地上に散つていった。

この制度は戦争末期に採用されたため、戦後も予科練のように一般にその功績を讃えられることもなく、海にひっそりと淋しくその幼き命を国にささげた。

特年兵については、私自身戦後久しく経つてから、東京青山の東郷神社境内に建立されている特年兵の碑に詣で、はじめて知つたほどである。

碑に刻まれている皇后陛下

の御詠

「やすらかにねむれとぞ思
う君のためいのちささげし
ますらをのとも」

また元海軍大臣、海軍大将野村直邦氏の揮毫になる碑文に日く「あ、十四才、大日本帝国海軍史上最年少の勇士である少年兵より、二才も若く、しかも特例にもとづいたものであつたため、特別年少兵、特別年令兵の名があり特年兵と略称された。太平洋戦争の時局下に純真無垢の児童らが一途な愛国心に燃えて祖国の急に馳せ参じたその数は十七年の一期生三千二百名をはじめ二期生四千名、三期生各五千名におよんだ。戦場での健気な勇戦奮闘ぶりは昭和の白虎隊と評価された。

だが反面幼いだけに犠牲も多く五千余名が南冥にあるいは北辺の海に短い生命を散らした。しかも特年兵の存在は戦後歴史から忘れられていたため長い間幻の白虎隊という数奇の運命をたどっていた。

私がこの特年兵のことを何故述べるかといえば、わが三四三海軍航空隊にも、この特年兵の整備員が配員され、苛烈な大村での決戦に活躍していたことを、先般の靖国神社での三四三空慰霊祭に出席された特年兵出身の山本昌三氏から聞いてはじめて知ったからである。同氏は、四〇七飛行隊の整備の下士官で、班長は岩月誓一氏だったと話をされた。

山本昌三氏は昭和二年生まれだから、その時は十八才になるかならぬかであったわけで、氏のほかにも特年兵出身の若武者が何人いたか、調べようもなく残念に思っている。一、若武者の活躍と並び賞されねばならないのは、被弾し傷ついた紫電改の補修（パッチ当て）に活躍していた女子挺身隊員達の凛々しい乙女姿である。彼女達は二十一航空廠の工具として、航空廠修理に差出された紫電改の修理に文字どおり身を挺して、馴れ

ぬりペット打ちや羽布張り、塗装、洗濃等の作業に歯を食いしばって従事していた。額にしめた日の丸の鉢巻、モンペ姿の可憐な少女の目を血走らせて一機でも多く一時でも早くと必死の作業をする姿が、ほとんど毎日のように連絡のため航空廠に入入りしていた私の眼底には今でもはっきり焼きついている。

一、このように、有名、無名の幾多の戦士に支えられて、赫々たる戦果を挙げてきた栄光の三四三海軍航空隊剣部隊にも、八月十五日が訪れた。この日以降の屈辱にみちた幾日かの憶い出については、本稿の主旨でもないので省略

するが、おわりに、四国松山が三四三空発祥の地であるなら、長崎県大村は、三四三空終焉の地として双方とも帝国海軍最後の、そして最精鋭の戦闘紫電改の名とともに、我々三四三航空隊関係者の胸裡には永久に記念されるべきである。

海軍生活一番の

想い出

吉村 幸男（工作）

松山基地の工作科で、私達機械の者ほど仕事が少なく、何時も搭乗員の時計のガラスを風防で作ったり、ギンバイ用作業に明け暮れしていた者はないと思う。一台の旋盤、一台のボール盤を地下防空壕に入れて、山榊兵曹以下四人の兵が掛かるだけの仕事はなく、板金や木工の人達には申訳ないような楽な戦闘配置であった。

宮崎空から転進して、一月、二月の下旬頃、私と仕上げの岡崎上工と二人に山崎掌工務所より、内務省松山工事事務所の工作出張所に十匁のロードローラがあるから、その機械を修理して基地へ運び入れよと命ぜられた。

工作出張所は記念碑より三百米ほど松山市よりのところ

にあり、毎日岡崎と二人が修理に通った。基地の外へ出て、ウルサイ下士官や兵長達の目のとどかぬ隊外での作業だ。赤錆のロードローラの上には、古鉄や古機械の山、いやな作業も苦にならず、これを整理して作業に掛かった。

このローラは松山基地を作る時、滑走路や道路の填圧に使用した御用済みの機械で、内務省の工作主任の話では再使用は不可能だが、と云いながら種々と指示してくれた。

先ず、ディーゼルエンジンの噴射ノズルが悪く、これの修理に取り掛かった。ノズルの弁座中央の一耗程の穴の周辺三、五耗ほどが、弁棒でたたかれへこんでいるので、その分だけ油砥石で毎日毎日砥ぎ降ろす。

弁棒も砥ぎ降ろすというような気の長い作業の繰り返しであったが、同年兵同志ソラをつきながら楽しく過していた。

その間には三月十九日の敵

終り

機動部隊艦上機による大空襲があり、五月一日付で岡崎と共に兵長になったのもこの頃であった。

五月の中旬敵の爆撃により、滑走路に大きな穴が出来たので、人力による埋め戻し作業、その後、ようやく動くことの出来るようになったローラが力強いエンジンの音高らかに、滑走路を填圧していった。

この三か月の大修理が、私の海軍生活で一番印象に残った作業であった。

六月二日、大村基地へ進出を命ぜられ、その後長崎の原爆、終戦と激動の時代を経た、自分の青春時代を懐しく思い出して筆をとった次第である。

横井 友数 (工作)

一、軍人ハ要領ヲ

本文トスヘシ

昭和二十年三月十九日、松山の沖で大空中戦が展開され、我が方は大勝利をおさめた。世に「松山沖航空戦」と称す。

数日後、敵は松山を集中攻撃して来た。ちょうどそのころ、山の麓に隧道が完成したので仮兵舎として移った。

松山航空隊(予科練)の兵舎が被爆炎上した時のことである。巡検後、我が七分隊に派遣された。消火隊出動の命があり、私は兵十五名を選び、分隊長及び当直将校に出発を告げ、隊門を出た。

現地に着いた頃には、軒高三十尺もある木造二階建ての兵舎軒端から、白い猛煙と蛇の舌のような真紅の炎がメラメラと吐き出され、手のつけようがなかった。

延焼を防ぐため渡り廊下、便所、物置等を叩きこわすよう指示した時、ふと忠臣蔵の大石良雄が吉良邸に討ち入った時「山」「川」の合言葉で敵味方を判別したことをおもい出し、練習生や他分隊の消火班と間違わないように「工作」「天狗」を合言葉とした。

猛煙、猛火に合った時は、互いに助け合うことにした。「天

狗」というのは隧道に行く道ばたの民家の門に天狗の面が吊ってあったので、それから思いついたのである。(今でもこの面は昔のまま吊され残っている)

兵隊に防火用具を持たせ、五米間隔横一線に散開させ、伏せの姿勢で待機した。防火用具とは次の品々と記憶している。

- 1 消火蔦口—二米くらいの檜の棒の先端に蔦口がついている。
- 2 手 斧—刃が両方についている。
- 3 掛 矢—木製の大きなハンマー。
- 4 金 槌
- 5 鋸
- 6 ロープ

この時、兵舎の炎は数米の火柱をたてて燃えあがり、棟木も落下した。幸い、便所、物置は延焼しなかった。

伏せの姿勢で待機していた兵隊は何時のまにか砂面に顔

を伏せて居眠りする者、「煙草の火に不自由しない」といって煙草を吸う者等、思い思いの姿勢で火勢の衰えるのを待ち、全員を松原の下に集合させて、十分交替の二人宛の見張員を立たせ、砂浜で仮眠させた。この見張員は、火災延焼のためではなく、防火隊指揮官の巡回のためのものであった。

数十分して鎮火した。各消火班は全員集合し、人員、用具の点検を行い解散となり、各隊に帰ることとなった。

途中、堂之元川の左岸法面に腰をおろし休憩させたところ、顔を伏せる者、横になる者等、皆疲れたらしい。法面の下の草むらで寝させることとした。十数分寝たと思ったら暗闇の中に爆音らしい音が聞えた。居直ってあたりの様子に目を向けると、前燈の布覆に錨を染め抜いたサイドカーで側車には伊藤分隊長の姿ががすかに見えた。火災の現状の視察か、帰隊の連絡の何れか

で来られたのだと判断し、総員を起こし隊列を整え、堂々と堂之元川の堤防上を隊に向かった。まもなく、後方より再び爆音が聞え、分隊長から「ご苦労であった。隊に帰れ」との慰労と命令があった。

東の空からは太陽が昇り始め、木影からは何筋からの陽光が流れ、今日の戦果と勝利を知らせ、武運長久を祝しているかのようであった。当直将校に「派遣防火隊ただ今帰りました。本隊が現地に着いたしました時には、既に兵舎天井まで炎上し、なす術なく物への延焼防止に全力を尽くしました。人員、要具異状なし。おわり」と大声で報告しおわるや、「引率者、ここに来い」といわれ、駆足で行き敬礼した瞬間、二つ、三つ殴られた。「貴様、全力を尽して消火活動をしたならば、今少し兵隊の衣服や消火要具が損傷している筈だ。濡れてもいないでないか。馬鹿者!!」
といわれて隊列の方を振り

かえれば、兵隊は眠い目を無理にあげて悄然としている。

「ハイ」

と答えて列に戻る。

交替に、二番隊が編成され、北田兵曹（私と同年兵、健在）が引率者に選抜された。前記のような失敗をしないよう悪知恵をさすけた。

火災は鎮火しているが、帰隊の時、鳶口や消火要員を半分程度焼き、兵隊の衣服は裂き破ったり、泥水で濡したりして奮戦奮闘したらしくして、当直将校に状況報告したら、「ご苦労、殊勲甲」と褒められたとのことである。何時の世にも、どこにも、要領はあるものだ。

七月二十五日、松山市街が大空襲で焼け野原になった。この日、我が七分隊に珍（新）兵器の製作の命令が下った。新兵器とは聞いてビツクリ、見てビツクリ。その、製作概要を述べよう。

酒井分隊長（名古屋出身、健在）の率いる特別工作隊は、

金工班、西中兵曹（健在）、山榊兵曹（昭53亡）、私と兵十数名。木工班は、杉原兵曹（戦後亡）と兵数名からなる。

槍三千振、手投弾五千発を八月二十二日までに製作完了するようにとの特命を受けた。急拠予科練松山航空隊の裏山に作業場を作り、新兵器の製作を開始した。

前夜の空襲で焼け野原となった松山市街へ作業班を出し、トラックで焼け跡から建築ポルト、特に火打ポルト、径十六耗十九耗見当の焼け古物鉄類を採集し、西中兵曹の率いる「鍛冶専修」が石炭とコークスで丸鋼を高温に加熱し、丸鋼を叩延し、槍の穂先を作るのである。

石炭やコークスを焚く時、煙を出さないよう苦労した。これが本当の野鍛冶屋だ。私の率いる「仕上げ専修」は、槍の穂先の黒皮をグラインダーで削り取り、ヤスリで穂先をつけて磨くである。

「木工班」を率いる杉原兵

曹は出来上がった槍の穂先を、山中から伐採した小丸太の末口を芯割りして叩き込み、目釘穴をあけ、目釘には五寸釘を打ち込む。余りは叩き曲げ槍の竿の曲りや、節を鉋で削り取り、手滑りよいように修正仕上げして、「槍一振、仕上り」となる。

山榊兵曹の率いる「機械専修」は、径五十耗程度のパイプを、長さ十二〜十三程に旋盤の穴切りバイトで切り落し、両端に木栓をして、内部に火薬を充填、導火線をつける。三四三空紫電改が海軍の新鋭戦闘機なら、さしずめ、これら槍手投弾は松山基地の「珍兵器」だったろう。

ただ、実戦には間に合わなかったが、浪曲や、映画、テレビで見聞きする「大利根川の決闘」で笹川繁蔵の用心棒、平手造酒が刺し殺された竹槍よりは立派だったと思う。

概ね工作兵は入団前から工作関係に従事していた者が多い。とくに徴兵できた者は体

力も経験も豊富でよく健闘した。私のような志願兵は、階級は上でも体力や経験に乏しく苦勞した。

私達の作業は特攻隊と変わりのないことを訓し、目的や任務の重大さを確認させ、全力を尽した。

日課であるが、朝夕の点呼だけは軍律厳しい軍隊であったが、作業場にあつては、上官に対する敬礼もなければ、休憩も自由。もちろん、巡検後の整列もなかった。ただ、任務を全うするのみだ。

服装など暑さのあまり、禪一つ、ねじり鉢巻、鼻歌で頑張った。入団前のそれぞれの自分の特技を生かし、精一杯ご奉公できると皆喜んで、昼夜の別なく頑張った。とくに「上専修」の高坂、蟹江の両工兵長（いずれも名古屋出身）らはよくその任を全うした。八月十五日には九〇%でき上つていた。

八月二十日頃、復員の命があつたが、その意味がわから

ずとまどつていた。

「一時休暇を与えるから、各自それぞれの郷里に帰れ。但し、何時お召しがあるかも知れない。あつたらすぐ原隊に復帰しなさい。」

と訓示された。私は兵全員を集めさせ、出来あがつた槍手投弾を大きな松の木の下に穴を掘り、半月間汗と油で仕上げた珍兵器を涙とともに埋めた。もし、必要なときは誰でもよいから掘り起こして使用するよう指示して、西に東にと別れた。

その後、十数年過ぎ、二度現地に赴いたが、山の形も変わり、誘導路もなくなつていた。また、松の木も見当らない。再び掘り起して使用することも必要もなく、万々才である。

平和の今日、先任、戦友の靈安からんことを祈り、武勲と名譽ある三四三空剣部隊の隊員であつたことを誇りとして、今日の平和を再び乱すことのないよう、子々孫々まで語り伝えよう。

つづく

さらば予科練 ⑥

乙飛十九期 山田 稔

軍令承行令の罪

予科練一期の野口大先輩はかつて「予科練に入つて一番嬉しかったことは、軍令承行令改正で堂々兵学校出の指揮官に互し、能力を全幅發揮することができたことである」と語つていた。

軍令承行令とは？一体何者なのか？

実はこの軍令承行令が海軍をダメにしたと佐藤宗次氏はその著で述べている。また「太平洋戦争の謎」（日文新書）で佐治芳彦氏は「勝機を逸し、勝てる態勢・戦う体制を崩した海軍人事の不思議さ」と題し述べているが、ことは海軍だけではなく陸軍はもつとひどかつたのではないか。

軍令承行令とはいわゆる先任序列制で最責任でなくてもあるいは最責任でもポジションにつけるし、つけないのである。機動部隊の司令官や、航

空隊の司令官、また司令が航空本来の認識に欠けていたため、いたずらに搭乗員を犠牲にしただけで有終の美を飾れなかつた例が多い。

また、中央にいて苛烈な戦局の推移に疎い、司令官または参謀が、既にガダルカナル以降、白昼攻撃はいたずらに被害が出る九九艦爆や、九六陸攻を出撃させ大損害を受けた例もある。

陸軍も同じである。

富永恭次第四航空軍司令官の異常な行動等は有名な話であるが、国運を左右する最後の戦闘の指揮官がこれでは戦いの推移は自ずとわかるわけで、これは軍縮の時代をうまく乗り切り、栄達を遂げた将官級によく見られる・・・。およそ武人らしくない軍人官僚が戦争を始め、指揮を執つたのだから戦いの行く先は決まっている。と「特攻」で御田重宝氏は呆れたと言わぬばかりの表現である。

「雷撃隊出撃せよ」巖尾谷二三男著では悲運の龍部隊という見出しで、この多大の期待

をかけられた隊が実は若干の危惧をもつていて、それは十七年六月以降の惨烈な戦況に直接タッチしない幹部及び下士官・兵を含む搭乗員で隊は構成され血のにじむような訓練努力を重ね、機材人員とも恵まれた隊にもかかわらずテニアンで壊滅してしまつたという。

戦いの初歩である経験(戦訓)を無視し、また、一方で経験豊富な若手士官・下士官(予科練出身者)兵を酷使し、斃れるまで出撃させるということでは、救いようのない指揮系統というほかない。

雄飛149号で「英空軍の場合」のJ・E・ジョンソン氏が軍曹から五年後大佐に昇進(朝鮮戦争では少将)したと書いたが、同窓の中には大尉の間違ひではないか?との疑問も当然で、しかも氏は正規の軍関係の学校等一切出ていないまさに実力でここまで昇進したのである。その訳は(私はあまり英空軍には詳しくないが)D・F・CとかD・F・MあるいはD・S・Oを独空軍機撃墜

または攻撃侵攻等に功をたてたパイロットが授与されると、その度に昇進するが、此の昇進は所属する司令官によってなされるという。

第一章で私は日本社会(軍隊も)は縦型の天皇を頂点とした社会であると思ふたが、英国は違ふと思う、だからあの独空軍の猛攻を耐えに耐えて押し返し、勝利を手にしたのである。さて、今この英国式特進を予科練出身者に当てはめてみれば、優秀な予科練一期野口さん等は、大佐か少将で司令官、二期の岩井・高橋さんは司令、故西澤飛曹長は特進して大佐、その他多くの諸先輩は主要なポストを夫々占められたことであろう。日本の社会は閉鎖的で島国的である。英国も島国だが、門戸を広く空けている。ジョンソン氏の「編隊飛行」を読むと気持ちが良い。カナダ、ニュージールランド、オーストラリア・ローデシア等あらゆる国籍のパイロットがひとつにまとまって彼と共に戦い、彼の指揮を喜んで受け入れている。不思議

なことに冷徹で傲慢な参謀等の介入はあまり見られない。思う存分氏の力量を発揮させていることで、従つて氏もそれだけ期待に応えたのである。

雄飛第151号で十期生野田利幸先輩の記事(予科練外史・倉町秋次著)抜粋の中、予科練(海軍航空学校)三年卒業後准士官待遇(四力年)の後飛行少尉とし兵学校出身者と同様に扱う云々とあつたが、結局この案は縦割り社会の日本では、実現は到底無理な話とはいへ建議した方々の先見の明と、洞察には深い敬意を表するものである。

さて、まだまだ苦言やら感想やら書きたいことは山々あるが、昭和天皇・皇太子(現上皇)に始まつた本稿も最後は皇室に関わる話でしめたいと思う。最近「昭和天皇の妹君」河原敏明著(文春文庫)を読んで驚いた。目からウロコが落ちたとはこのことであろう。三笠宮様に双子の妹君がおられ尼になられたという。大正天皇にもわずかに生まれ月日の違う兄君がおられ、こ

の方は一般人堀川辰吉郎氏で、死後ようやく宮内庁も内々に認めたといい。

戦後は熊澤天皇が出現し、この後小泉信三氏等の具申により美智子皇后・雅子様等が民間から入られたが、御皇室もその長い・万世一系の歴史故、今までも、更にこれからも様々なことが起こるであろう。

予科練は十五年の短い歴史で終わつたが「昭和の御世に国を護り、民族を救うために、花と咲き花と散つた大予科練があつたことが、語り継がれそれが時として、人の心に光」と、勇気を与えることになることを願っています」といふ今は亡き倉町秋次教官の、私達へのメッセージを何時までも忘れないでいたいものである。

付記 縦割り社会(国家)の

長短

長所 整然として命令一下行動できる。家長制。

短所 恩恵と感謝。

上に馬鹿・野心家・放蕩者等ができる。責任の

所在がはつきりしない。
一種の身分制度。

三つの蹉跌はまた、バネにもなったかなあ、そして今しみじみと予科練生活を回顧し、感慨を深くし、併せて亡き戦友のためにも会のため頑張りたく思う。

私の予科練三つの蹉跌

二つの進路

当時私たちは三月埼玉師範の受験のため居残り勉強をしていた。しかし、それに先立ち私は一月東松山市(現)での海軍志願兵の試験を受けていた。早朝の電車の窓から真っ白な富士山を望んで私は緊張していた。

もちろん親には内緒である。予科練には半分懂れ、半分は師範受験の力試し、そんな今から考えると実にあやふやで軽率な人生選択であった。そして瓢箪から駒、合格。その後土空での二次試験に望んだ。村から一つ先輩の松中生と二人(先輩は合格せず、通信兵として入団、戦後再会した)。

十九期の記録「蒼空賦」所載

の同県人見富武男氏は二次検査の様子を詳細に記しているが、それによると期間は二月二十二日上野公園集合二十三日から各種検査が始まり、二十七日に退隊したとなっている。私はこの時村から十四期生として入隊していた笠原勇先輩(眉目秀麗もちろん母校で一番)の姿を窓から偶然見た。その後二三日して夜私の処へ「お前も来たか!」と尋ねて来てくれた。笠原先輩とは四クラスぐらい違っていたが。倉町教官の「空の少年兵」を借用して読んだ仲である。笠原先輩は二十年一月南西諸島上空で散華された。

二次も無事終わりホットして土浦駅の売店で「靖国の絵巻」を買った。裏に墨で多分帰宅して書いたのだろう土浦海軍航空隊入所記念土浦駅にてとあり庁舎と上空を飛ぶ飛行機の絵、年月日もある。ちなみに同画集は通常非売品のはずで、神社で戦死者の祭りこみの折、遺族へ配布したもの、家も遺族なので別のが一冊ある。正式な採用通知、並びに十

二月一日入隊すべしの横須賀鎮守府の詔書は前記「蒼空賦」の内田俊雄君によれば三月二十五日となっている。すると三日間浦和の師範で行われた試験、そして合格発表(新聞にも掲載された)が済んだ後と言うことになる。幸か不幸かわたしは両方合格して(予科練はドンジリ合格、本命は師範なので不合格にして貰った方がスッキリしたのだが)これが後日スツタモンダの大騒ぎと相成ったのである。

父は初めから師範一本で、すでに入学の準備も一応調べたある日、村長と兵事係主任が我が家に来た。用件はもちろん予科練へ是非という膝詰談判である。

「何としても村の名誉のこと」「小川地区(四カ村)で三人目の予科練合格で断るなんてとんでもない。飛行機乗りは国の宝です。神兵ですよ」「村の名誉」だなんて表現が昔あったんだねえ。もつとも戦後、オリンピックだかアジア大会に選手が一人出ると言

うので村を上げて送ったが成績はサッパリ。代議士や首相でも出たらどうだろうか?わが地方のY議員も捕まった。首相だっていつどうひっくり返るかわからない。

軍国時代は軍人が、そして戦死して村の名誉。難関を突破して予科練に入ればこれも名誉か、敗戦で世はあべこべ、特攻隊の神様も、特攻・予科練くずれでヤクザ扱いこれで若者が傷つかなきゃ嘘というものだ。村長・兵事主任の甘言に父も洪々無言の承諾。予科練への軌道に乗った私だが、こうした人は予科練生には相当いたようで、最近亡くなったが隣村十二期の持田さんもその一人とのことである。

運命!人間は所詮どちらか択ぶのだ。両方同時に生きてはいけぬ。人に勧められようが、自分で選ぶのが一本ドッコだ。私は予科練に入ったことで様々な事はあったが一番感謝しているのは、弱い私がトコトン鍛えられ健康になったことだ。もちろん、食事もある。町から師範に入った三

人のうち二人は教職についた後入院し、いずれも私が見舞いに行つたが、寮生活の貧しい食事が原因だろう。しかし、これらはずっと戦後のことで、予科練時代の私の蹉跌はまだまだ続くのである。

特攻志願で

十九年八月第二回休暇終了直後、私たち操縦分隊は艦務実習代行で大井空へ派遣された。代行等と名前は良いがなんのクソ、飛行場拡張の茶こぎ・土カレンである。然もアメリカ本土爆撃用だと言う。深山か連山か？もつと大型機か？これらも所詮計画倒れに終わったのだろう。私たちはそこまで見定めぬうち、急遽、三重に呼び戻され、三十一日剣道場に全員集合させられた。「何だろうか？」。

前後左右、相談できない間隔に並ばされ、ワラ半紙八つ切りが手渡された。やがて司令が壇上上がり挨拶された。所謂水上特攻・震洋への養成である。然しその時具体的にそのことはわからず、決戦用

の新兵器という表現だったように思う。そして司令は最後に「自分はあくまで飛行機に乗り祖国のため尽くしたいと思うものは白紙で出すよう」との指示があった。

聞いていて私はワナワナ震えた。緊張の故ばかりではない。裏切られた。飛んでもない難題だ。私は怒りに我を忘れた。何のための予科練だ。村の名誉だ、国の宝なんておだてられ、今足元をすくわれた。こんな事なら父の希望通り師範にいつていたら等々色々考え、ヤケになった私は初志貫徹あくまで「空」でと白紙で提出した。

「蒼空賦」所載の錦清次氏によると氏は同じ白紙提出でひどい目にあつた。「自分の意思を『○』『○』『白紙』で記す時に私の心は千々に乱れた。いやしくも海軍軍籍に置く限りこの身は国に捧げたが、然し、必ず海軍の飛行機乗りと心に決め今まで歩んできた。私の死に場所は大空にある。初志貫徹か、海か、自問自答のあぐけく後者を選んだ。ところが

早速班長に呼び出され「あくまで大空で散りたい、突つ込む時は誰よりも早く」と強い決意を述べたが「詭弁である。貴様は死ぬのがそんなに怖いか、根性を叩き直してやる」バッターの乱打、酒保止め、外止止めの制裁が続いた。苦しかった、辛かった」と記している。

私はよくぞ綿氏は書いてくれたと思う。司令が特に伝えられたからそれに従つたまでで班長は気遣い沙汰であり命令違反もいとこ軍法会議もんである。特にバッターはひどい。私は海軍が好きだが、このバッターのある海軍は亡びて良かったと思つている。つい最近地元の役職の会合でたまたま海軍三人（主計・通信・私）

バッターのひどさに話が及んだ時、聞いていた軍隊経験のない後輩が「そんなことしたから戦争に負けたんだ」全く私も同感である。いじめられて誰がやる。この予科練からの震洋進出については前にも書いたが「ドキュメント神風」の著者ウォーナー氏も「第十二震洋隊の搭乗員たちは、い

ずれも最初は航空要員として教育されていたのを舟艇要員に転用するとは、要員の才能と訓練とを無惨かつ奇妙な形で浪費したものである」と記している。バッターの班長も、そしてこれを企画した中央、いずれも狂いだしたとしか考えられない。私の場合「ダメな野郎だ」程度で済んだけれど、私の「ヘソ」はこの時から曲がりつばなし。こうと決めたら、たとえ誰がなんて言おうと、甞（スッポン）だ、カミツキ亀だ、例えあの世だろうと突つ走るのだ。（普段の私とは想像でしなかつた）

そして学認問題

この件については先に「雄飛164号」で発表したが、一部の方が曲解されている向きなのでこの際、戦後とはいえ私の第三の蹉跌なので改めて記したい。

要は「昭和三十九年一月十一日付官報発表の予科練教程修了者の学歴認定」では六期の岩井先輩の言ではないが「この申請に尽力された方々

のご努力に深く感謝するもの」全く遅きに失した感は否めず、せめて二十六年（後述）内至二十九年時であったらまだまだ活用の道もあつたらうが、祭りの後の提灯、遅かりし由良之助ということであろう。

戦後私はしばしば母校へ訪ねて行き生徒と一緒に学芸会、映写会等やったが、戦前の先生もいて「君が来てくれたらどんなにいいか、一つこれから先考えてくれ」と懇望されたが、農林省に入った為私は二度と教職の道は進まなかつた。公民館講師は二十六年やつたが、さて、学認がなぜ遅れたか？二つ考えられる。一つは総司令部の意向はどうだったか？敗戦直後、マッカーサー司令官は大学・旧制高校へは軍関係の生徒は一割以上採用してはならぬと通達して来た。

また、二十一年一月、旧軍人・政治家に公職追放令を出し、約二十万人を第一線から退けた。戦争中あれ程活躍した乙種子科練を見逃す筈はない。甲は家庭から学校へ通つ

たのでまあいいとして、乙をこのまま認定し、社会の中堅幹部として送り出せばどうなるか？軍国主義の塊のような連中、あぶない。

然し昭和二十五年六月朝鮮戦争勃発でアメリカは180度転換する。日本を軍隊を解体した事を後悔したのである。今まで、日本が貧しいながらもアジアの赤化を防いできたのである。朝鮮、そしてベトナムでアメリカは高い代償を支払うことになる。あまり人が良すぎた。アメリカも日本も閑話休題。

昭和二十六年講話発効で公職追放も、軍人恩給も復活した。すると、総司令部対予科練乙は無いいということになる。残りは旧海軍そして第二復員省の対応と処置にかかる。

ところで度々引用させていただが十九期生の記録「蒼空賦」ほど素晴らしい本は他に無いと思う。自慢するわけではないが内容が単なる記録でなく、実に微に入り細にわたって広く、予科練の全貌をまとめているからである。す

なわち、予科練の創設から、その教育内容等々よくぞこまどと只々感嘆するのみである。

予科練制度創設の経緯では、すでに大正八年の調査報告書の中で修業年限3ヶ年普通学は中学校(旧制)に準ずる、後昭和五年の予科練発足でもほぼこの案を踏襲している。その教育内容は教官については兵学校・機関学校及び一般旧制中学の有能教官を採択し、生徒の場合精神訓話に始まり、体操・武技・体技の外、運用・航海・砲術・水雷・通信・航空術・機関・生理衛生・軍制及び諸法規と詰め込まれ普通学において修身・国語・漢文・数学・(四科目略)理科・物理・化学・歴史(三科目略)地理(三科目略)英語等々よくも練習生はこれだけこなし得たかと只々驚くばかりである。

私はこれだけの内容と「蒼空賦」編集スタッフのみでも充分学認は可能であつたと思つた。残念なことに創設当時の有能な提督は亡くなられ(山本元帥・大西中将・市丸少将)残つたのは半呆老人と頭

に血が上がった少壮幹部ではそういつた事実を知らず、或いは知つていても、やれ恩給だなんだのと、自分の身を処するのに精一杯で、私たちの学認を等閑(なござり)にしたのではなからうか？ひどい話である。

また、倉町教官の「空の少年兵」であるが、この本には「普通学」学習の場面や話一つも出てこない。最初はあつたか知らないが、戦時下でもつとカッコ良い場面、劇的なエピソードが主となつている。映画「決戦の天空へ」も、もちろん普通学のシーンはなかつたと思う。これらの本や映画を想起した人たちは、予科練生(乙)がこの戦局下悠長に普通学しかも英語まで勉強していたなど到底考えられなかつたに違いない。

学認が遅れたためどれだけ多くの乙の優秀な人材が、その実力は人一倍ありながら市井の中に埋もれてしまったことか。なぜなら、概ね秩序だった軍隊と違い、私たちが放り出された社会は形式的で、表

面的で一定の規準を満たさなければケンもホロクの魑魅魍魎(チミモウリヨウ)の怪しい世界なのだ。硬軟使い分けも必要なのだ。

かくいう私も無資格で何と「農林事務官」におさまり今、村で只一人、国家公務員共済組合連合会からの年金生活で贅沢はできないが、なんとか生きられるのも時には反抗したけれど、諦観して流れに身を委ねてきたからだと思う。

つづく

甲飛十四期 故大野富美夫様 に関する情報の提供について

甲飛十四期生 故大野富美夫様は、昭和二十年生存予科練生として復員後茨城県において戦後を過ごして参りましたが、平成二十二年十月十六日に八十三歳で永眠されました。没後、ご子息の大野敏明様が、ご尊父様の遺産として海軍に従事した証を遺したいと関連する資料などの提供を求めておられます。

会員の皆様で、大野富美夫様に関連する情報をお持ちの方は、事務局までご連絡ください。

*大野富美夫様の「旧海軍の略歴」(厚労省社会援護局援護業務課への照会回答を抜粋引用)

◆出身地：茨城県北相馬郡文間村出身(現在は町村合併で「文間村から利根町」に変更)

◆生年月日：昭和3年6月8日生

◆軍歴

昭和十九年四月一日

土浦海軍航空隊 入隊

(第十四期甲種飛行予科練習生)

昭和二十年三月二十二日

川棚突撃隊(長崎県川棚町の部隊)に配属

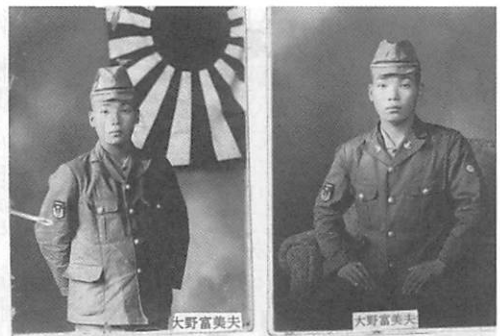
同年四月一日

三二突一(ベニヤボート

「震洋」突撃隊)に配属



白 幡 甲 飛 会 総 会 H 5 年 10 月



【下士官】海軍二等飛行兵曹 時

天国へのメッセージ 第五回

「太宰先生、ありがとう」

海原会参与

行方 滋子

「ありがとう」の言葉では言い表せないくらい感謝の気持ち

先生と歩んできた想い出の数々

今回の慰霊祭の前に「いつでも二人三脚じゃないよ」と言われたけれど、

私は来年も一緒にできると信じていました。

でも、太宰先生は慰霊祭の翌日、令和四年五月三十日に永眠されました。

慰霊祭の日、私が最後まで司会進行ができるように、力を振り絞ってくれたのですか？

先生に何かあったら、司会ができなくなるとわかっていましたからですね。

私は、今でも信じられませ

ん。

電話をしたら、いつもの張りのある優しい先生の声が聞けるような気がします。

「はい、はい、行方さん、どうしましたか？」

もつと、先生の教えを聞いて、しっかりと勉強しておけばよかった。

もつと、もつと素直になればよかった。

反省することは、たくさんあります。

でもね、先生
私も、自分なりに頑張ってきたんですよ。

今回の司会は、合格点をもたえますか？

先生の遺志を継いで、これからも頑張りますから、見守ってくださいね。

「これからは、単独飛行だよ。」

そういった先生の声が忘れられません。

太宰先生、本当にありがとうございます。

太宰信明副会長は、予科練

戦没者慰霊祭の司会進行の後継者を行方参与と決めて、第五十回予科練戦没者慰霊祭から少しづつ行方参与に司会を任せ、ご自分はアドバイザーとしていつも司会者の傍で式典の時間管理などの補佐を

していただけました。

そして今年の第五十五回慰霊祭で完全にバトンタッチをされる予定になっておりました。

そのために、大森の事務局や青梅のご自宅においてレッスンをしていただきました。

現役のプロのアナウンサーでしたので、その指導は大変厳しく行方参与も、うまくできない自分に何度も悔し涙を流しながらの五年間でした。

太宰副会長は、その愛弟子の晴れ姿を見ることなく旅立たれましたが、予科練慰霊祭における「太宰イズム」は確実に

に行方参与が受け継いでくれるものと確信しております。

(事務局)

ロシアによるウクライナ侵攻の報道を見るたびに繰り返しされる人間の行う愚かな過ちを悲しく思い、過去に日本がおこした戦争というものを改めて確認したく訪問させていただきました。

戦場にて散って行った若者だけでなく、彼らを見守り送り出した家族達、何故と止める事ができなかつたのか、国家に国が洗脳されていたと



(イラスト：太宰信明氏作)

雄翔館見学者感想文

ロシアによるウクライナ侵攻の報道を見るたびに繰り返しされる人間の行う愚かな過ちを悲しく思い、過去に日本がおこした戦争というものを改めて確認したく訪問させていただきました。

戦場にて散って行った若者だけでなく、彼らを見守り送り出した家族達、何故と止める事ができなかつたのか、国家に国が洗脳されていたと

言え人と人が殺し合う行為は何故止められないのか、もし日本がまた同じ過ちを行う時が来たとき自分は どうしているのか。雄翔館に展示されている手紙を一つ一つ読みながら考えさせられました。

令和四年四月

竜ヶ崎市 岩崎様

家族旅行で茨城にきて、行く所を決めています。ほんの一時前前にインスタでみつけ予約なしだったのでふらつとよつたようなものでした。ところが、こんなにも心がゆさぶられてしまう出来事。ただ立ちつくし、悲しむばかりでした。

母として我が子を戦いに行かせるために生み育てたつもりではなかつたでしょう。そしてあこがれていた兵隊さんになれたと思つたはずが、死を選ぶしかない若者たち、一人一人のストーリーの一部を見せていただきありがとうございます。お父さんお母さん

さようならと命をちらせた尊
い人たちのために、祈ります。
そして、わすれないで今を生
きていきます。もう一度あり
がとう

令和四年四月

仙台市 大内様

今回初めて雄翔館を訪れま
した。正月に平和館を見学し
た時以上に感動しました。

父、小澤敏久は昭和十七年十
月一日、甲飛十一期生、一一九
一人の内の一人で二〇〇一年
(平成十三年)十月五日、午前
四時三十分母に看取られて
すい臓がんで亡くなりました。
生前、二男である私に戦争中
の事を良く話しておりました。
同期の百二十四人が戦艦陸奥
が柱島で亡くなった事。就学
中は5番以内だった為、偵察
機の彩雲に登乗していた事。
十九歳で終戦を迎えるまで愛
知県の二一〇航空隊で最年少
だった事、徳島基地では「なる
と」との海は上空から見ると
本当にうずを巻いていた事、

松山基地では源田実が司令官
だった事など、父から聞いて
いた事は展示にあるように史
実である事が空母「大鳳」の
沈没した様子に感動しました。

令和四年五月

東京都 小澤様

まず展示のされ方や、保管が
ていねいに行われているのを
見て、とてもすばらしく、来
て良かったと思える場所でし
た。ありがとうございます。
思った事としては改めて戦争
は良くないということ。そし
て今ある平和な日本が、多く
の人の命の結がりということ
を実感できました。

本日は本当にありがとうございます
ございました。乱雑な字です
いません。

令和四年五月

中島様

毎年一度は何つております。
こちらこそ、貴重な遺書・遺品
を拝見させていただきまして
有り難うございます。私の祖

父は特攻隊の生き残りでした。
十六年前に祖父は他界しまし
た。いつも聞かされてました。
「生き残ったことには意味が
あるんだよ。ひろみ、いつもそ
の意味を考えて前を向いて生
きていきなさい。

人のためになることをしな
さい。」と言われ続け、私は今、
高齢者の介護に携わっており
ます、くじけることがありま
すが皆様の遺書を胸に抱き心
に深く受け止めてご高齢の皆
様が笑顔で穏やかに暮らせる
世の中を目指していきたいで
す。

特攻隊・予科練の皆様、平和な
国をありがとうございます。
コロナ禍・ウクライナ問題を
深く受け止めて、皆様が残り
て下さったへいわの意味を考
えていきます。

令和四年五月

船橋市 森山様

戦後から七十七年が経過い
たしました。震災・世界的な
感染症、百年前と似たような

情勢となつてまいりましたが、
改めて戦いのないことを願う
ばかりと見学させて頂き、実
感致しました。ありがとうございます
ございました。

令和四年五月

片山様

特攻に参加した同年代の人
たちの言葉に直にふれられた
気がしました。大変有意義な
時間でした。ありがとうございます
이었습니다。

令和四年五月

(匿名)

第五十五回予科練戦没者慰霊祭
玉串奉納者ご芳名簿
茨城県阿見町
野口 雅弘様 金 五千元
東京都国分寺市
安部 節夫様 金 五千元

お詫び

機関誌471号8頁(玉串
奉納者ご芳名簿)に誤植があ
りましたので、謹んで訂正し

お詫び申し上げます。

【誤】

神奈川県足柄市

金井 克巳 様

【正】

神奈川県南足柄市

金井 克巳 様

(公財)海原会寄付者芳名簿

(敬称略) (単位千円)

令和四年六月二十日より

一〇 宮崎 満夫(非会員)千葉

五 野口 雅弘(一般)静岡

五 豊福 和郎(特5)山梨

五 菅野 寛也(一般)静岡

五 吉川 誠二(甲14)兵庫

五 伊藤かおり(一般)神奈川

一〇 白坂 忠良(甲14)福島

五 塩澤 貞夫(甲16)東京

一 遠藤 正男(甲12)千葉

一〇 北村 直也(甲13遺)長野

五 堀川 光子(乙14遺)大阪

二〇 武器学校OB会 茨城

海原会へのご芳志

誠に有難うございました。

事務局日誌

六月

三日

慰霊祭資材手入れ
於 海原会保管庫

湯原理事、平野理事が慰霊

祭で使用した資器材の手入

れを実施

四日

ご遺族案内

於 雄翔館等

熊本県から来所した、乙飛

十六期徳永裕邦様のご遺族

を、平野理事が予科練平和

記念館と雄翔園を案内した。

六日

慰霊祭反省会の実施

於 武器学校

武器学校と行った反省会に

酒井副理事長以下平野理事、

篠田理事、山下理事、湯原

理事が参加した。

十日

霞ヶ浦高校訪問

於 霞ヶ浦高等学校
平野理事が慰霊祭へのボラ

ンティア派遣お礼の為に校

長を表敬訪問した。

十八日

六月理事会・評議員会

於 ホテルマロウド筑波

参加者 菅野理事長、酒井

副理事長、安井副理事長、

平野理事、山下理事、湯原

理事、豊岡監事、小野評議

員、明石評議員、湯原評議

員、六車顧問、行方参与

二十二日

安井理事長来所

於 事務局
安井理事長が業務指導のた

めに来所した。

二十五日

筑波海軍航空隊慰霊祭

於 筑波航空隊記念館

平野理事、行方参与が参加

した。

二十七日

星指副理事長来所

於 事務局

星指副理事長が、業務指導

及び議事録捺印のために来

所した。

二十八日

令和三年度事業報告

於 事務局
平野理事が令和三年度事業

報告書及び収支決算書を内

閣府に電子申請した。

七月

四日

武器学校長・阿見町長表敬

安井理事長が就任の挨拶の

ために表敬訪問した。

九日

大東亜戦争全戦没者慰霊祭

於 靖國神社
出席者 平野理事・行方参

与

二十五日

阿見町観光ガイド会長来局

於 事務局

観光ガイド及び予科練平和

記念館との協力体制構築に

ついての第2回協議実施

大妻女子大若林教授来局

於 事務局

機関誌予科練の総目次作成

調整のために来局

二十七日

ご遺族来局

於 事務局
丙飛十二期境田忠信様のご

遺族(北海道在住)が、九月

に雄翔館を訪問される事前

調整のため坂口様来局

海原会会員の皆様へ

小さくてもあたたかい

一日葬 家族葬

お葬式のご依頼や
「もしものとき」に
備えた事前のご相談
年中無休で承ります

相談
見積 **無料**

お客様満足度
99%

※
自宅葬、日葬、お別れ会のほか、
ご希望に合わせた
お葬式プランがございます。

※当社施行客アンケート調べ

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。墓石工事は信頼の10年間の保証書付きです。

墓所工事

標準価格
(10万円以上)の
10%割引

サービス提供エリア:
関東・関西・東海



「お墓のお引越しガイド
&事例集」

無料で資料を差し上げます。

お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式セットプラン」を各種ご用意。最適なプランをお選びいただけます。

葬儀

祭壇標準価格の

20%割引

※一部斎場、一部商品は除く。
新花で送る家族葬は
優待料金

サービス提供エリア: 関東



「お葬式の流れが
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。伝統型仏壇や家具調仏壇、手元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇

店頭価格の

25%割引

※ただし、催事特価品と
仏具小物、手元供養商品
は対象外

サービス提供エリア: 関東



「お仏壇カタログ」
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは
海原会事務局へ

029-886-5400

お問合せの際は、「予約練を見た」とお申し出ください。

MAO
MEMORIAL ART OHNOYA



メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予約練」第471号7・8月号
昭和53年7月26日第3種郵便物認可

令和4年7月1日発行
隔月奇数月1回1日発行

編集人

安井 剛
保坂 俊雄

発行所 〒

300-0301

公益財団法人 海原会
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1

(慎輝ビル3階)

郵便振替
0014019154332
00291886154332
00291886154332

定価500円